

井上泰宏(いのうえ・やすひろ)

1986年生まれ 37歳

福岡県北九州市出身。大学卒業後ボートレース関係の会社に就職。2015年から日刊紙記者として若松ボートを担当後、20年から芦屋ボートに常駐。趣味は釣り。車のシート下に餌が転がり込んだことに気づかず、しばらく異臭を放ち続けたのがトラウマ。

うらやましいほどカッコいい！

毎年大村で行われるGⅡモーターボート誕生祭を制した佐藤翼選手の優勝インタビューには「うらやあ、カッコいいな」とうらやましいほどに思われました。前検日が現在産休中の妻・土屋南選手の誕生日。「大村に来る前にプレゼントは何がいいかを聞いたら優勝と言われたので、優勝できて良かったです」。いやいや、カッコよ

no.20

待ち遠しいSGの開幕

すぎるでしょ。表彰のステージも大盛り上がり。カッコいいだけでなく、年に1回しかないチャンスをもノにするのですから、もはやうらやましいを通り越して脱帽です。特別戦の優勝は2021年の児島周年以来、2回目でしたが、昨年はSGダービーとチャレンジカップで優出してグランプリに初出場。トライアル2ndに進むことはできなかつたですが、シリーズ回りとなっても気持ち切らさず

舟券作戦に大事な要素

大村は誕生祭のあとに1週間

ここでも優出。年間SG優出3回で最高峰の舞台も経験と、飛躍の年となりました。

誕生祭の前には下関周年を走っていて、その時には勝てば準優1号艇という状況で巡ってきた4日目の予選最終レースの1号艇で勝ち切れないどころか6着大敗で準優は5号艇に。準優では2着でしたが、不良航法で賞典除外となり優出を逃すことになってしまいました。誕生祭でも、下関周年と同じく4日目の予選最終レースの1号艇が巡ってきました。勝てば予選トップ通過が決まるという状況。前日に番組を確認した段階で「前節(下関)は失敗したので、今節こそ」と意気込み、コンマ05のSから速攻。そして準優、優勝戦と逃げを決めての王道Vでした。

ほど空いて九州地区選と特別戦が続ぎ、九州地区選には後半3日間だった誕生祭と反対に前検から前半4日間の取材に行ってきた。地区選で使用されたエンジンの多くは誕生祭でも使われていたもの。私自身は芦屋担当で普段はそれほど見ていなくても大村担当の記者から話を聞いたり実際に見たりしていたので、ぼんやりとエンジン相場が頭に入っている状況でした。その中で最も注目していたのは、辻栄蔵選手が誕生祭で準優勝だった14号機。誕生祭の前検時点で2連対率は27%と低かったのですが、中間整備後に急上昇したエンジンだったのです。地区選で手にしたのは森永淳選手。前検のS特訓で同じ班だった同じく佐賀支部の深川真二選手が「淳の足がすごい。同じ位置で起こしても一気に置いて行かれる」と目を見

大物の予感！

イケメン記者の





誕生祭優勝の佐藤翼と14号機の辻栄蔵



森永淳

うのを引くのは一般戦でいいのに「ともいいながら」こっそり走ろうと思っていたのに目立っちゃうでしょ？(笑)とももちろんまんざらではない様子でした。ただ強力パワーゆえに「Sが早すぎる。怖いぐらいに早い」という不安を抱える上に、気温の変化に対応しようとして調整を施してもクセが強くて調整が難しいという落とし穴もありました。

森永選手は節間で未勝利に終わってしまいましたが、6日間72Rで唯一の10万舟を演出したのも森永選手でした。2号艇だった3日目9R、スリットで1号艇の岡崎恭裕選手がやや遅れ、反対に3号艇の古澤光紀がやや前にいる状態から、出て行った森永選手は外マインを選択。まくられまいと窮屈になりながらも先マイに行った岡崎選手と森永選手は接触して後方へ。その隙を逃さなかった古澤選手が突き抜けました。森永選手とは逆でパ

ワー低調だった古澤選手は「Sは勘通りに行けていたし、淳さんにプレッシャーをかけることは考えていました」と、してやったりの表情。舟券の楽しみ方は様々ですが、出ているから勝てる、出ていないから勝てないというほど単純じゃないのがまた面白いのがボートレースでもあります。好素性機を軸に考える舟券を買い続けることも大事だと痛感しました。

どんなもんじゃい！

大村の九州地区選には影響がなかったのですが、他地区の地区選では中止・順延が相次ぎ大変な状況に。最も被害が大きかった津で行われた東海地区選は3日間も開催できずに予選を3日間に短縮。そして3日目は2Rだけしか開催できませんでした。そしてこの波乱のシリーズを優勝した井口佳典もカッコ良かった！シリーズリーダーとして臨んだ準優1号艇で2着でしたが、優勝戦はまくり差して頂点へ。井口選手は東海地区選の前には若松を走っていて、若



塩田北斗

松も中止があつて2日間開催に。そこでは優勝戦1号艇で優勝することができませんでした。その分もこもっていたのでしよう。現地で見ることはできませんでしたが「どんなもんじゃい」というひと言は映像で見てもしびれました。ちなみに、この優勝で手にしたクラシックの舞台は若松。ここでのリベンジにも期待がかかります。もうひとつちなみに、2日間開催となった若松で優勝したのは自他ともに認める穴男・宮本夏樹選手。2戦2勝での完全優勝(?)でもありました。

予備からの下克上も？

地区選はSGクラシックへの最後の切符を巡る争いでもありません。近畿地区選は稲田浩一選手、東海地区選は井口選手、中国地区選は渡邊和将選手、九州地区選は仲谷颯仁選手が優勝を飾り、自力で出場切符を勝ち取りました。四国地区選で優勝した島村隆幸選手は昨年の尼崎周年、関東地区選

を制した土屋智則選手は奇遇にも同じ尼崎で行われたSGグラントチャンピオンを優勝してすでに権利を持つていたので、予備からの繰り上がりは2人だけ。まずは永田啓二選手。九州地区選では苦しい戦いが続きましたが、5日目まで部品交換を続けるなどもがき続けて最終日は白星を挙げて2連対と意地を見せました。もう一人の塩田北斗選手は初日の6着で少なくとも王道Vが遠のいてしまったこともあり、気がでない様子で中国地区選も関東地区選も「予選トップは誰ですか？」や「優勝戦1号艇は誰になりましたか？」と連日逆取材でした。クラシックの開催地が地元若松ということもあり、ともに気合も入ることでしょう。昨年のSGチャレンジカップでは選考順位最下位だった河合佑樹選手が優勝。出場権を確保してしまえば、選考順位は関係ありません。予備からの下克上というストーリーがあるかも……。今年のSG開幕戦がいまから楽しみです。